

3. 海上保安庁の取組

海上保安庁は、東京湾環境一斉調査に合わせ、岸壁からの水質調査や第三管区海上保安本部測量船「はましお」による水質調査を行いました。



溶存酸素量等の調査

透明度の調査



水温の調査



測量船はましお



化学的酸素要求量の調査

第三管区海上保安本部の
測量船「はましお」による調査

本庁海洋情報部による
お台場岸壁からの水質調査

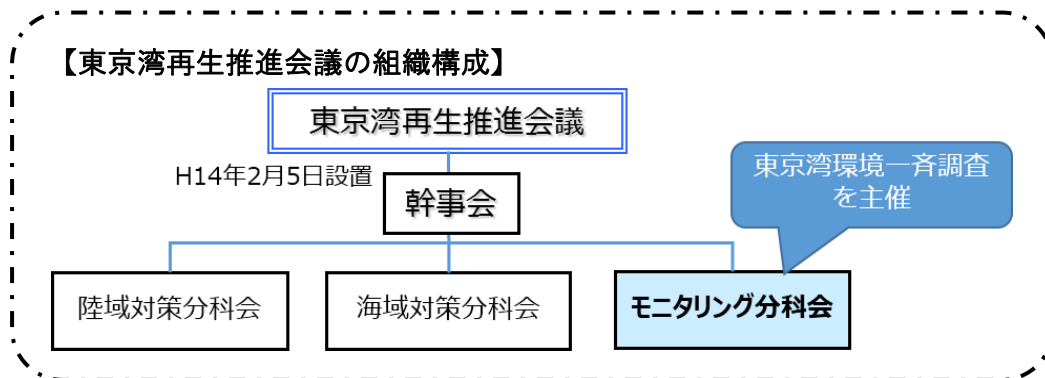
【令和3年度東京湾環境一斉調査報告書 掲載ページ】

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm

二次元コード



【参考】東京湾再生推進会議の枠組



「東京湾再生推進会議」は大都市圏の「海の再生」を図るため、平成14年に関係府省庁及び地方公共団体を構成員として設置されました。詳細については、下記 URL をご覧ください。

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html



令和4年3月24日

東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議
東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム

令和3年度東京湾環境一斉調査 調査結果の公表について

令和3年度の東京湾環境一斉調査の調査結果をとりまとめた報告書を公表いたしましたので、お知らせします。

今年度の水質調査は9月16日（木）に実施され、148機関の皆様に御参加いただきました。水質調査では、底層の海水に溶けている酸素の量(底層溶存酸素量)が3 mg/L未満と低い水塊(貧酸素水塊)が、湾中央から湾奥部で観測されました。

また、生物調査と環境啓発活動等のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一般公募は中止し、過去の参加機関に対して自主的に実施された調査等のデータ提供をお願いしました。その結果、生物調査では、東京湾に住む身近な生物種の調査など7件の報告が、環境啓発活動等のイベントでは、生物観察や海岸のごみ拾いなどの8件の報告がありました。

水質調査の様子



生物調査の様子



環境啓発活動の様子
(生物観察)



二次元コード



https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm

【令和3年度東京湾環境一斉調査報告書 掲載ページ】

1. 実施内容

(1) 水質調査

- ・調査基準日 令和3年9月16日(木)
- ・調査内容 東京湾の海域又は流域河川において、次の項目等の調査を実施
 - 【海域】水温、塩分、溶存酸素量(DO)、化学的酸素要求量(COD)、透明度
 - 【陸域】水温、流量、溶存酸素量(DO)、化学的酸素要求量(COD)、透視度
- ・参加機関数 148 機関
- ・調査地点数 海域 548 地点、陸域 414 地点 計 962 地点

(2) 生物調査

- ・実施期間 令和3年度は一般公募を中止し、過去に御参加いただいた方を対象に自主的に実施された生物調査のデータ提供を依頼
- ・調査内容 底生生物、魚類など各参加機関が実施する生物調査データを収集
- ・参加機関数 7 機関(報告件数は7件)

(3) 環境啓発活動等のイベントの実施

- ・実施期間 令和3年度は一般公募を中止し、過去に御参加いただいた方を対象に自主的に実施されたイベントの報告を依頼
- ・活動内容 水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントの実施
- ・参加機関数 6 機関(報告件数は8件)

2. 結果概要

(1) 水質調査

・水温

表層の水温は、湾全域で23℃から24℃程度を示していました。底層の水温は、湾の大部分で22℃程度でした。

・塩分

表層の塩分は、湾口部では比較的高く、西側の沿岸域で低くなる傾向がみられました。特に、荒川、隅田川、多摩川や鶴見川の河口部で塩分の低い領域がみられました。

・溶存酸素量(DO)

表層のDOは、西側の沿岸域で局所的に高い領域がみられました。底層のDOでは、湾奥から湾奥部に貧酸素水塊(およそ3.0 mg/Lを下回った水塊)の形成が確認されました。

・化学的酸素要求量(COD)

表層のCODは、西側の沿岸域で高く、湾口部で低くなる傾向がみられました。底層のCOD分布は、湾奥北西部で高い傾向がみられました。

・透明度

透明度は、湾奥部で低く、千葉県沿岸部と湾口部に向かうにしたがって高くなる傾向がみられました。

